

ニュースレター

DSD/JICA PROJECT ON DISABILITY

Department of Social Development (DSD) / Japan International Cooperation Agency (JICA)
Project for the Promotion of Empowerment of Persons with Disabilities and Disability Mainstreaming



2016年5月10日に専門家2名が南アフリカに赴任し、「障害者のエンパワメントと障害主流化促進プロジェクト」を開始しました。2016年11月7日から11日にはプロジェクトサイト（リンポポ州）の作業部会を対象にチームビルディング・ワークショップと障害主流化研修を実施しました。第3号ニュースレターでは、ワークショップと研修の内容についてご報告させていただきます。

目次

作業部会の設立	1
チームビルディング・ワークショップの報告	1
障害主流化研修の報告	2
今後の予定	2

作業部会の設立

プロジェクトでは、具体的な活動の計画・実施・モニタリングを行うことを目的に作業部会（リンポポ州）を設立しました。作業部会のメンバーは、社会開発省（中央・州・郡）の行政官に加え、教育省、保健省、農業省、首相府など関連する他省庁の行政官、地方自治体関係者、南アフリカ警察、障害者団体の代表、コミュニティの障害者など職種・性別・障害の有無を超えたメンバー総勢40名から構成されています。2016年11月7日から11日に、多様な関係者で構成される作業部会が円滑に活動すること、作業部会のメンバーが社会モデルに根ざした障害理解を深めること、プロジェクトの活動計画を作成すること、を目的にチーム

ビルディング・ワークショップと障害主流化研修を実施しました。



チームビルディング・ワークショップの様子

チームビルディング・ワークショップの報告

チームビルディング・ワークショップでは、リンポポ州社会開発省の行政官マアケさんがファシリテーターを務め、様々なプログラムで作業部会メンバーの相互理解促進を図りました。プログラムの1つ「Build a Tower」は、小グループに分かれ、ファシリテーターから配布された材料を使い、できるだけ高い塔を建てるゲーム。参加者は楽しみながらも真剣な表情で塔を作りました。ゲーム後の振り返りでは、高い塔を建てるには土台が重要だと気が付いた、どのような塔を建てるのか設計図を明確にしてから始めることが大事だった、メンバー全員が役割分担をすることが役に立つ

たなどの意見があがり、これらの気付きは作業部会の活動にも当てはまると参加者は学びました。午後に行われた屋外プログラムでは、障害者と非障害者が一緒に参加する方法を考えながら、チーム対抗でゲームを行いました。的当てでは、チームメンバーが視覚障害者と一緒に手で触れて的の位置を確認したり、的の近くで手をたたいて的の位置を知らせたりと各チームで様々な工夫が見られました。楽しみながら、チームとして活動することや障害者の参加を促進することを考える、とてもよい機会になったと参加者からは大変好評でした。

障害主流化研修の報告

障害主流化研修は、①障害とは何かを考える障害平等研修、②障害者が中心となり社会を変えた国内外の好事例の紹介、③参加者によるプロジェクト活動計画の作成等で構成されました。障害平等研修では、車いす使用者のズキさんがファシリテーターを務め、障害は個人でなく社会にあること、障害者が社会参加するには社会を変えていく必要があることを自身の経験を交えて語りました。国内の好事例の紹介では、電動車いす使用者のジュライさんが、障害者同士がそれぞれの経験を聞きあうピア・カウンセリングや障害者が互いを支えあう自助グループ活動を通じ、自身がどのように変わったのか発表しました。

参加者の一人、ビクトリアさんは生まれつき手に機能障害がある女性です。研修に参加する前は、心無い人からかわれることがあり、手を隠して過ごしていました。しかし、研修を通じ、障害は社会にあることを学び、今後は誰にとっても住みやすい社会を作っていきたい、まずは自分の経験を共有できる仲間を集め、自助グループを作りたい、と話してくれました。

ビクトリアさんなどコミュニティの障害者の声が反

今後の予定

プロジェクトは現在、2月に予定しているピア・カウンセリングセミナーおよび3月に予定しているプロジェクトの第二回合同調整委員会の準備を進めています。プロジェクトホームページを通じて、プロジェクトの進捗状況などをご報告させていただきます。どうぞご期待ください。

Department of Social Development (DSD):
134 Pretorius Street, HSRC Building, Pretoria,
0001, South Africa

Editors:

Daisuke Sagiya: DaisukeS@dsd.gov.za

Ren Kamioka: RenK@dsd.gov.za

映され、プロジェクト活動計画にはピア・カウンセリングや自助グループの設立が盛り込まれました。プロジェクトは、研修で作成した活動計画をもとに、2017年2月から本格的にコミュニティでの活動を実施していく予定です。



障害平等研修のファシリテーターを務めるズキさん（右）



発表者に質問するビクトリアさん（左から2人目）



プロジェクト活動計画を作成する研修参加者たち